

イノベーションの推進と新しい価値の創出

オカムラグループは、さまざまな空間に優れた製品とサービスを提供することで、快適で創造性や効率性が高く健康に働き暮らせる最適な空間を提案しています。また、新たな視点から、働き方やさまざまな空間に関する調査・研究を行うとともに、共創による事業や情報発信を通して、新たな価値を創出していきます。

働き方やさまざまな空間に関する調査・研究

社会構造の変化や技術の進歩、ライフスタイルの多様化などを背景に、働き方やオフィス、店舗のあり方などを考える動きが広がっています。こうした状況を踏まえ、オカムラでは新たな視点から働くことや未来の店舗に関する調査・研究を行うとともに、さまざまな企業、大学など広範な分野の方々との連携や情報発信を進めています。

働き方・働く場に関する研究の取り組み

1980年より働き方や働く場に関する研究所（現：ワークデザイン研究所）を設け調査・研究を続けています。社会の動向や人々の意識の変化を捉え、その中から研究テーマを設定し、大学や研究機関などさまざまな専門分野の研究者と連携しながら一歩先の働き方と働く場を探索しています。研究結果や知見は、各種学会や研究会、研究冊子・ウェブサイト「KNOWLEDGE」などを通して、広く社会に発信しています。2024年11月に、『KNOWLEDGE - WORK DESIGN REVIEW 2024』を発行しました。「成長を促すオフィス」という特集のもと、良いオフィスで働くことがワーカーの成長を促進するのではないかという仮説に基づき、成長実感に対する意識や実態を調べる調査とともに、仕事を通じて起きているワーカーの成長に焦点をあてて分析しています。



『KNOWLEDGE - WORK DESIGN REVIEW 2024』（2024年11月）



働き方・働く場の研究と視点

<https://www.okamura.co.jp/office/research/>

2025年の日本の働き方のトレンドを発表

ワークデザイン研究所がこれまでに行ってきたさまざまな調査や研究による知見と社会情勢を踏まえて、企業の経営課題をオフィスなどの働く場づくりで解決するための拠りどころや指針となるべく、8つのキーワードを「はたらき方のトレンド 2025」としてまとめ、2024年12月にウェブサイトにて発表しました。2025年の働き方として「交流」「成長」「健康」「効率」の4つのカテゴリーを設定し、社会的背景にある「人口減少・人材不足」「豊かさに対する価値観の変化」の2つを掛け合わせ、8つのキーワードを設定しています。最重要キーワードは、「ナレッジブローカー」です。企業内外の複数の共同体に所属し、それを仲介して切り離されたアイデアをつなぎ、新しい文脈に移す

ことでイノベーションを起こしていく存在です。2025年は、誰もが「ナレッジブローカー」になるためのスタートを切る年だと考えています。



「はたらき方のトレンド 2025」

未来の店舗のあり方に関する研究の取り組み

2024年に「お店のみらいを創造する研究所（愛称：みせいくラボ）」を発足し、消費者や小売業を取り巻く環境が大きく変化する中で求められる新しいお店のあり方を研究しています。社会や市場、業界、技術の動向を捉え、未来の小売りに関わる調査研究を行い、顧客である小売業やパートナー企業、社外研究者などのさまざまな立場の人との共創活動を通して10年先の未来の店舗像を描き出しています。

（関連 [▶ P.152](#)）



みせいくラボ

https://www.okamura.co.jp/store/research/miseiku_lab/

共創による新しい価値創造活動

「WORK MILL (ワークミル)」の活動

オカムラは、働き方や働く場をさまざまなステークホルダーとともに描き、「はたらく」を変えていくことを目的として、「WORK MILL」の活動を推進しています。「WORK MILL」という活動名には、これまでの当たり前にとらわれず、「さまざまな視点で(見る)」「価値を挽き出す(MILL)」の2つの意味を込めています。多様な人たちとのオープンな共創プロセスのもと、「すぐに見られる」ウェブマガジン、「手に取れる」雑誌・冊子、「訪ねに行ける」共創空間を中心に活動を展開しており、共創による価値創造や、目的や志を共有できるコミュニティづくりを目指しています。

WORK MILL

 WORK MILL
<https://workmill.jp/>

「はたらく Well-being AWARDS 2025」を受賞

パーソルホールディングス株式会社が主催する「はたらく Well-being AWARDS 2025」をオカムラの岡本 栄理が受賞しました。この賞は、はたらくことを通じてその人自身が感じる幸せや満足感“はたらく Well-being”を体現し、その先にある笑顔を社会のチカラに変えた個人・組織を表彰するアワードです。岡本は、共創空間のコミュニティマネージャーとして全国の企業や学校、地域などとの共創を創発する活動を行っています。次世代の学生たちが中心に選考を行うFR (Future Generations Relations) 部門での受賞となりました。

VOICE



オフィス環境事業本部
働き方コンサルティング事業部
ワークデザイン統括部
価値共創センター 兼
WORK MILL 統括センター

岡本 栄理

共創活動によって「はたらく」ことを通じた世界を広げていきたい

私は日本の「はたらく」を考える共創活動・WORK MILLを通じて、長らく働くことに向き合ってきました。そこで気付いたのは、自分の外側にある社会や会社の課題を批判者として語るよりも、まずは好奇心を持って自分起点で行動を起こすと変えていけることもあること、それを信じることで開かれる道もあるということです。誰もが自分の中に小さな「としび」を持っていて、お互いにその火をくべ合うことで大きくなり、影響力が強くなる。ウェルビーイングの概念のもと、そんな人本来が持つ力を大切にする動きが広がっていることをとても嬉しく思います。また、次世代を担う方々に選出いただけたことが本当に嬉しくありがたかったです。

次世代に向けた取り組みとして、「はたらく」をテーマに大学で授業をさせてもらったり、逆に社会人向けに「はたらく」をテーマとしたイベントを大学生に開催してもらったりしたことがあります。世を超えて「はたらく」を語り合うことで、普段当たり前だと思っている思い込みを解消したり、次世代の働くことへの意識を高められたと手応えを感じました。

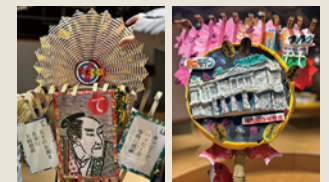
今後も“はたらく Well-being”を推進するすべての人たちと、さらにこの世界を広げていきたいと思っています。

WORK MILLの取り組み事例「EXPO 酒場」

大阪・関西万博をきっかけに一人でも多くの人の目的や願望、野望が実現するように、「まちごと万博」をつくる活動に取り組む「demolexpo」に2021年から参画しています。「demolexpo」のプロジェクトの一つで、「EXPO 酒場」という万博に興味がある人が集まって語り合う酒場イベントを、2021年から全国各地で開催しています。万博開幕直前には、オカムラの拠点がある東京・赤坂で「EXPO 酒場赤坂店」を全8回開催しました。イベントを通して赤坂のまちづくりを考える商店会の方々とながら、赤坂のまちの歴史やまちの人しか知らない魅力をご案内いただきました。まちの人と働く人が有機的につながる関係が醸成され始め、最終回にはみんなが赤坂の魅力を詰め込んだ熊手をつくりました。この熊手は、大阪・関西万博で開催されるEXPO 酒場のイベントで披露しました。万博をきっかけにまちのつながりが育まれていることを実感しています。



EXPO 酒場赤坂店



赤坂の魅力が詰まった熊手

共創空間での活動

オカムラは「はたらく」をテーマとした共創空間として、Open Innovation Biotope “Sea”（東京），“Cue”（名古屋），“bee”（大阪），“Tie”（福岡）の4カ所を開設、運営しています。ウェブサイトなどでイベント情報を公開し、誰でも参加できる場としての機会提供のほか、お客さまや地域の方、学生などさまざまな方の課題解決や価値創造のニーズに応える共創活動を行っています。

「はたらく」を中心とするテーマでイベントやワークショップなどを開催しており、社内企画だけでなく外部企画の共催・協力など、外部のパートナーとも連携して活動を進めています。さまざまな機会を通じて、オカムラだけでなく参加者同士の共創の輪も広がっています。



Photo : Norihito Yamauchi



<https://sea.workmill.jp/>



<https://bee.workmill.jp/>



<https://cue.workmill.jp/>



<https://tie.workmill.jp/>

TOPICS

共創空間“Sea”に海洋プラスチックを 天板に使用したテーブルを設置

共創空間であるOpen Innovation Biotope “Sea”は、「波打ちまざり、つながる場」をコンセプトとして「海」と「サステナビリティ」をテーマにさまざまな活動やコミュニケーションを展開しています。2024年5月の“Sea”の移転・リニューアルに伴い、海洋プラスチックをマテリアルリサイクルした天板を使用したテーブルを特別に製作しました。「海のゴミ」を「資源」と捉え、独自の仕組みでデザイン性のある板材として新たな価値を生み出すマテリアルリサイクル事業を展開する株式会社 REMARE（リマーレ）に協力いただきました。製作した天板は、牡蠣養殖のスペーサーやしらす養殖のトレー、その他海洋プラスチックなど、「波打ちまざり、つながる場」というコンセプトに沿った海由来の廃棄物を原料に選定し、粉碎・再成型したオリジナル天板です。この天板にオカムラの既製品のミーティングテーブル脚を組み合わせ、テーブルが完成しました。従来の天板とは異なる触り心地や見た目を楽しみながら、素材の持つストーリーに思いを馳せ、自然や環境、携わる人々とのあらゆるつながりを感じることができるよう、素地仕上げとしています。また、海洋由来の素材特有の色合いや質感を生かしたデザインを取り入れ、ベースカラーの白を基調に、素材に含まれるカラフルな色味が空間にアクセントを加えており、“Sea”の来場者に新しい視覚的体験を提供します。

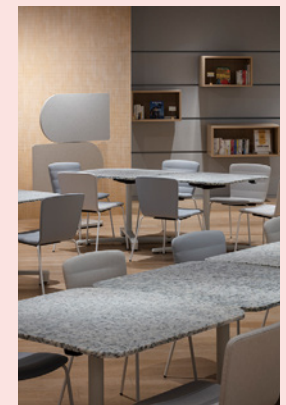


Photo : Norihito Yamauchi

共創による新しい事業に向けたさまざまな取り組み

オフィスでのいちご栽培を通して

コミュニケーション活性化を図るサービスを事業化

オフィス空間でいちごを栽培し、そのお世話をするという共同体験を通じて社員のコミュニケーションの活性化を図る取り組みをサービス化し、2024年9月より提供しています。この取り組みは、「City Farming（シティファーマーミング）with Okamura」として、日本出版販売株式会社が運営する年間を通して毎日新鮮ないちごが収穫できる植物工場を生活空間に提供するサービス「City Farming」と、オフィスにおいて多様な働く場を提案してきたオカムラが共同で実現したパッケージサービスです。ショーケースの筐体には、オカムラの商環境事業で培った冷凍冷蔵ショーケースの製造技術が活用されています。このサービスによるコミュニケーションの活性化を通じて、誰もが生き活きと働くことのできるオフィスづくりに貢献します。



オフィスでいちごを栽培してコミュニケーションを活性化

従業員のウェルビーイングを高める無人店舗を活用した共創

オカムラは、株式会社日立製作所が提供する無人コミュニケーション店舗「CO-URIBA（コウリバ）」を活用して従業員同士のつながりを深め、ウェルビーイングを高めるオフィス空間づく

りに向けて、日立製作所と共創を進めています。「CO-URIBA」は、事前に登録することで、顔認証によるチェックイン後、商品を手取るだけで買い物が完了する、手ぶらでのスマートな購入体験が可能な無人店舗です。会社から従業員、同僚から同僚などに、感謝の気持ちをクーポンで贈りあう「ありがとうクーポン」の機能があり、職場内のコミュニケーションの活性化や、仲間との共感・助け合いマインドの醸成を図ります。共創の一環として、実験的に離れた場所にある社内拠点双方に「CO-URIBA」を設置し、感謝の気持ちを伝えあうことをきっかけとした遠隔地コミュニケーションの活性化の検証や「CO-URIBA」が設置された空間の付加価値の検証などを行いました。オカムラのオフィス構築ソリューションと「CO-URIBA」を組み合わせた新たなオフィス空間の提案を目指して、共創を続けていきます。



オフィスに設置した「CO-URIBA」

預け場所不足や人手不足の解消に貢献する

「BAGGAGE KEEPER」の広がり

スーツケースなどの荷物を効率的に収納し、無人受付で荷物預かり業務の省人化を実現する自動搬送型荷物保管システム「BAGGAGE KEEPER（バゲッジキーパー）」の新しい使い

方が広がっています。「BAGGAGE KEEPER」は、これまでにさまざまなホテルに導入いただき、主にホテル内での荷物預かりを目的に使用されています。

2024年8月に、ヤマト運輸株式会社さまの新店舗「なんば駅前営業所」（大阪府大阪市）に、ホテル以外の施設として初めて導入いただきました。荷物預かり時に、利用者がキャッシュレス決済で課金して荷物を預けるコインロッカーのように活用されています。2025年4月からは、株式会社スーパーホテルさまの湯元「花乃井」スーパーホテル大阪天然温泉において、既に導入いただいている「BAGGAGE KEEPER」と連携した手荷物当日配送サービス「Airporter（エアポーター）」が始まりました。このサービスは、事前の受付・決済により、関西国際空港で荷物を預けるとホテルの「BAGGAGE KEEPER」へ当日配送されます。逆にホテルから関西国際空港への荷物の当日配送も可能になるサービスです。ホテルでの荷物の受け取り、預け入れは利用者自身で行うことができるため、待ち時間の短縮につながります。また、「BAGGAGE KEEPER」の操作画面は多言語に対応しているため、訪日外国人旅行者も利用しやすいサービスです。

オカムラは、省スペースと無人の受付対応により、預け場所不足や人手不足の解消に貢献する「BAGGAGE KEEPER」のさまざまなシーンへの導入と活用を今後も推進していきます。



「なんば駅前営業所」に導入された「BAGGAGE KEEPER」

物流自動化ソリューションの事業化に向けた取り組み

オカムラは、物流現場において、AI（人工知能）を搭載したロボットによる自律ピッキングと、ロボット単独では難しい作業を人が倉庫から離れた場所でロボットを遠隔操作してピッキング作業を行う、ハイブリッド型の物流自動化ソリューション「PROGRESS ONE（プログレスワン）」の事業化を進めています。

2024年4月から2025年3月までの期間でピースピッキング作業の自動化を目的とした実証実験を、トラスコ中山株式会社（物流拠点であるプラネット埼玉（埼玉県幸手市）にて行いました。ロボットストレージシステム「AutoStore（オートストア）」の出入庫ワークステーション（専用ポート）に「PROGRESS ONE」のピッキングロボットを設置し、AIを活用した自律ピッキングの検証を実施しました。「PROGRESS ONE」の実用性と効率性を実際の物流現場で検証しました。

また、2022年にモーションリブ株式会社と共同で実施した物流ピッキングロボットの遠隔操作時の力覚フィードバック効果の調査研究から、力覚フィードバックが遠隔での把持操作や緩衝材の押し込みを効率的に行うために必要不可欠な機能であることが明らかになりました。2025年2月にモーションリブと資本業務提携を結び、継続して開発を進めています。

物流現場での新しい働き方を実現するとともに、従来の運用では時間や場所、身体などの制約によって物流現場で働くことが難しかった働き手への雇用を創出する「PROGRESS ONE」の事業化に向けて、引き続き研究や開発を進めていきます。



「PROGRESS ONE」自律ピッキング検証の様子

DXの取り組みにおける共創

幅広い領域でDXリテラシーの高い人財を育成する取り組みである「DXラーニングプラットフォーム（DXLP）」（関連 [▶P.102](#)）からのビジネスアイデアをプロジェクト化した、メタバース（仮想空間）向けの企業公式3Dデータ販売サイト「RoomieTale（ルーミーテイル）」を2024年5月に開設しました。「RoomieTale」では、オカムラのオフィスチェアなどの3Dデータをデジタル家具として販売しています。

メタバースのユーザーは、メタバースプラットフォーム上で「ワールド」と呼ばれる仮想空間を自ら制作し、その空間に3D素材のインテリアを配置しています。しかし、データが軽く質の高い3D素材を自作するには高度なスキルが必要で、手間もかかります。そのため、製品の製造過程で使用する既存の緻密な3Dデータをメタバース空間に最適化し、データが軽く質の高いデジタル家具を実現しました。さらに、この事業に賛同いただいたカリモク家具株式会社、株式会社川島織物セルコン、エレコム株式会社との共創を通じて、各社の製品をメタバース向けに3Dデータ化しました。各社の製品の3Dデータは、2025年1月より「RoomieTale」にて販売を開始しています。今後もさまざまな企業との共創を通じてバーチャル空間での暮らしを豊かにし、バーチャルライフをより楽しめる機会の創出に貢献します。



企業公式3Dデータ販売サイト「RoomieTale」

 RoomieTale
<https://roomietale.com/>

さまざまな環境の構築と提案

WELL 認証取得オフィス構築の支援

近年、企業における人的資本経営や健康経営が広まる動きの中で、社員のウェルビーイング（身体的、精神的、社会的に良好であること）が注目されています。オフィスでのウェルビーイング実現のために、人の健康とウェルビーイングに影響を与えるさまざまな機能をパフォーマンススペースで測定・評価・認証する「WELL Building Standard™ v2（以下、WELL 認証）」を取得する企業が増えています。オカムラは、自社オフィスのWELL 認証「プラチナ」ランク取得の知見を生かし、顧客企業オフィスのWELL 認証取得の支援を行っています。

2024年4月にWELL 認証「プラチナ」を取得した沖縄セルラー電話株式会社さま（以下、沖縄セルラーさま）の本社ビルでは、オフィスづくりの考え方や空間デザインの提案・支援を担当しました。オカムラが提唱する、心と体の調和が取れ、活力が向上している状態「WELL at Work（ウェルアットワーク）」の考え方を盛り込み、天板の電動昇降機能でさまざまな姿勢に対応するデスクや調節可能なモニターの導入、運動・休息スペースの設置を行いました。新人事制度の導入や社員食堂での健康的な食事の提供など、沖縄セルラーさまのさまざまな取り組みも評価されました。また、オカムラが出資している株式会社point0が運営するコワーキングスペース「point 0 marunouchi」では、2024年10月末の更新審査において、国内のコワーキングスペースで初めて「プラチナ」ランクを取得しました。業界・領域を越えた企業が集結する「point 0」での協創／共創の成果が「プラチナ」取得につながりました。今後も、認証取得の過程で得た知見やノウハウを生かし、心身ともにより健康なオフィス空間構築の支援を続けていきます。

さまざまな空間構築の事例を紹介

オカムラでは、さまざまな空間づくりの取り組み事例を、ウェブサイトや冊子にて紹介しています。

オフィス環境事業では、オフィスや公共・文化施設などの納入事例について、プロジェクト発足の背景やお客さまの課題・要望に対するオカムラからの提案、構築した空間などを紹介するサイト「オフィスデザイン事例」、オフィスデザインと共に担当したスペースデザイナーを紹介するサイト「Experience Design by OKAMURA」を公開しています。商環境事業では、最先端の店舗情報として、スーパーマーケットや各種業態の納入事例を隔月で紹介する冊子『Stores of the Month』を1989年より200号以上発行しています。また、ウェブサイトでも「店舗・商環境の納入事例」を公開しています。物流システム事業では、機器やシステムを納入した物流倉庫などのソリューション事例を「物流システムの納入事例」としてウェブサイトで公開しています。

お客さまに、より具体的な空間イメージを持っていただくとともに、時代の変化やニーズに合わせた空間構築のサポートができるよう、情報発信に努めています。



オフィスデザイン事例

<https://www.okamura.co.jp/casestudy/office/>



Experience Design by OKAMURA

<https://okamura.design/experience/>



店舗・商環境の納入事例

<https://www.okamura.co.jp/casestudy/store/>

● 冊子『Stores of the Month』



物流システムの納入事例

<https://www.okamura.co.jp/casestudy/mhs/>

TOPICS

新たなConnectが生まれるオフィスを構築

オカムラは、働く環境の構築サポートを通じて、お客さまである企業の事業活動を支え、「人が活きる社会の実現」に向けて取り組みを展開しています。

高機能材料メーカーである日東電工株式会社さま（以下、Nittoさま）の尾道事業所（広島県尾道市）の新棟増築プロジェクトにおいて、オカムラがオフィス構築のサポートを行いました。尾道事業所は、広大な敷地内にさまざまな棟が点在しており、従業員の移動に時間がかかるため部署を超えた交流が生まれにくいという課題がありました。他にも、食堂への移動に時間がかかる、執務エリアが手狭、会議室や更衣室の不足といった課題もあり、新棟の増築によって棟ごとに機能を集約し、事業所全体の最適活用を目指しました。Nittoさまでは、若手を中心に「尾道事業所働き甲斐プロジェクト」を立ち上げ、従業員同士のつながりや地域と会社のつながりを心に留めるため、「Connect」をコンセプトとし、新棟増設をきっかけに新たなConnectが生まれることを期待されていました。

オフィスの構築にあたり、「尾道事業所働き甲斐プロジェクト」のメンバーに協力いただきながら、ワークショップやアンケートなどを行いました。その結果をもとに、新棟の役割や新棟増築に伴って生まれた空きスペースの活用方法を提案しました。部署やチーム単位で席を自由に選ぶグループアドレスを採用されたため、執務エリアにはグループ作業と個人作業の両方に対応するデスクとイスを配置し、新しい働き方に対応。また、会議室不足に応えるためワークブースや小会議室を増やし、休憩する場所としては、ワークスペースとしても使える社員食堂やリフレッシュエリアを設置するなど、さまざまな課題に対応できる空間を構築しました。オフィス面積が拡大したことで、足りない機能を確保し新たなつながりを生む空間を創り出しています。部署を超えた交流が生まれるように、既存棟と新棟をつなぐスキップフロアにイスとテーブルを置いて「Connect（交流エリア）」を設けました。テーブルは、新棟建設の際に出た伐採木を利用して作られたもので、この伐採木は各階会議室のサインプレートにも使用されています。今ある資源を大切に作る姿勢と、木のぬくもりが感じられます。新オフィスでは、社員同士が気軽に声を掛け合い自然とコミュニケーションが生まれる仕掛けを散りばめており、Nittoさまが大切にしている「つながり」があちこちで生まれています。



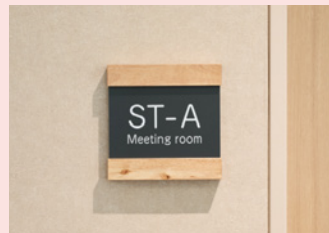
グループアドレスを導入した開放感のある執務エリア



ワークスペースとしても利用できる社員食堂



既存棟と新棟をつなぐスキップフロアに設置された新棟建設の際の伐採木で作ったテーブル



新棟建設の際に出た伐採木を再利用した会議室のサインプレート

より良いオフィス提案に向けたDXの活用

幅広い領域でDXリテラシーの高い人財を育成する取り組みである「DXラーニングプラットフォーム (DXLP)」から、より良いオフィスづくりに向けたツールやシステムの開発につながっています。

2024年12月に、オフィススタイル診断サイト「OFFICE KIT（オフィス キット）」を公開しました。新しいオフィスをつくりたい企業が、企画段階で自分たちにふさわしい働き方やオフィス空間を検討するためのサポートツールです。実現したいことや理想のオフィスを選択していくと、「OFFICE KIT」が最適なオフィススタイルを診断し、働き方や空間、アイテムの活用例を紹介します。診断には、オカムラのオフィスに関する研究で培われた知見や数多くのオフィス構築の実績をもとにした最新のデータ、トレンドを反映しています。

設計初期段階のオフィスレイアウト案をAI活用により自動生成するシステム「Work Space Creator（ワークスペースクリエイター）」を株式会社テクトムと共同で開発し、2024年11月より試験的な使用を開始しました。オフィス設計の初期段階において素早くオフィスのイメージを可視化することで、生成されたレイアウト案をもとに顧客とのコミュニケーションを円滑に進めることができ、設計要件の整理・共有の時間短縮につながります。オフィスづくりにおいて最も重要なオフィスのあるべき姿や働き方についての検討、オフィス設計の空間デザイナーが創造性を発揮するデザイン業務に多くの時間を充てることが可能になります。

今後もより良いオフィス提案に向けてDXを活用していきます。

（関連 [▶ P.19](#)、[▶ P.102](#)）

 **きっと理想のオフィスが見つかる「OFFICE KIT」**
<https://www.okamura.co.jp/office/officekit/>

TOPICS

「2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）」に出展 未来のくらしや働く喜びを伝える展示と催事で、オカムラを知ってもらう機会に

2025年4月13日から開催の「2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）」に出展しました。大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」に対し、オカムラのパーパス「人が活きる社会の実現」にある人が活きる社会とは何か、という問いを立てて向き合い、「EXPO 2025 OKAMURA Challenge 人が活きる社会へ、自分を解き放て！」を出展テーマにしました。展示として、伝えなかった素直なキモチを交換できる7日間限定のお店「キモチキオスク」の出店（4月22～28日）、催事として、演じる全員が主役で自分役、未来の自分に働きかけるドラマを創る、オカムラ社員による劇団「ザ・オカムラ座」の公演（4月26日、2回公演）を行いました。未来のくらしや働く喜びを伝える展示・催事を通じて、自分らしく活きる人を増やし笑顔があふれる社会の実現を目指すオカムラを、万博に来場した多くの人に知ってもらう機会となりました。



伝えなかった素直なキモチを交換できる 7日間限定のお店「キモチキオスク」

「人が活きる」につながる未来のお店のあり方を考え、「買い物の原点は気持ちの交換である」という、誰かを想ってモノを選ぶ行為の本質を表現した体験型の展示です。コンビニエンスストアのような空間に、「この前はご麺」「オツカレライス」「ずっといっしょチョコラ」など、さまざまな気持ちを表現した商品が並び、来店者は原則二人組で参加して、相手に対する気持ちにぴったり合った商品を棚

から探し出します。それぞれが相手への気持ちを表す商品をレジに持ち寄り、実際に商品の購入はできませんがお互いへの気持ちを交換します。レシートには交換した気持ちと記念の写真が印刷され、思い出とともに持ち帰っていただきました。



「キモチキオスク」店内



レジで気持ちをトレード



VOICE



商環境事業本部
お店の未来を創造する研究所
(みせいくらボ)
福田 知春
(写真後列右から2人目)

気持ちのトレードが自分で人の心を動かす経験に！

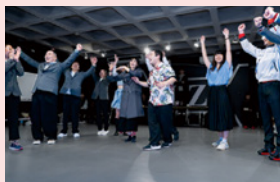
コンビニエンスストアを模した空間でいつもの買い物体験をなぞるとキモチキオスクの体験が成立するようデザインしました。アイキャッチになる内装・什器のピンク色は温かな暖色系を意識し、キモチを表した商品にはクスッと笑えるダジャレを織り交ぜました。商品名の英訳にも力を入れたので、海外の方も同じように気持ちを伝えられたと思います。

期間中は、約7,000人に来店いただきました。はじめは恥ずかしそうにしている、レジでレシートを渡す頃には笑顔が溢れていて、私たちはお金の代わりに幸せな気持ちをいただきました。自分で人の心を動かした経験は店頭に立ったスタッフ全員の糧になったと思います。オープンまでの苦労は語り尽くせないほどありましたが、どこかに吹き飛びました！

キモチキオスクは、「人を想い、場を創る。」のオカムラ宣言と、みせいくらボの「お店は生活者の文化をつくる場であり、商品・金銭だけでなく、目に見えずとも買い物中に売り場に飛び交っているさまざまな気持ちもトレードし合う場になっていく」という未来洞察を掛け合わせて企画しました。購入体験の自動化・無人化はこれからもっと進んでいくと思いますが、人間らしさはこれからも欠かせない観点だと考えています。

未来の自分に働きかけるドラマを創る、 オカムラ社員による劇団「ザ・オカムラ座」

さまざまな働く環境と働く人をサポートする会社として、まずは自分たちが主役として働く喜びを表現しようと劇団を企画し、演劇『12人のとびだす会社員』を上演しました。働くことのワクワク感や共創をノンバーバルコミュニケーション（非言語コミュニケーション）で表現し、観客に体感的に楽しんでいただきました。演者から衣装や小道具の担当、当日の運営などのサポート担当を含めた劇団員は社内公募を行い、全国の拠点やさまざまな部門から100名以上の応募がありました。その中から選ばれたメンバーを中心に、外部のサポートも得ながら共創し、舞台をつくりあげました。演者全員での練習は丸3日間しかできず、自主的に集まって練習するなど公演当日まで練習を重ねました。



全体練習



演劇『12人のとびだす会社員』
最後の決めポーズ

 Okamura Live :) (オカムラライブスマイル)
大阪・関西万博関連記事
<https://live.okamura.co.jp/tag/id78>

VOICE



働き方コンサルティング事業部
ワークデザイン統括部
価値共創センター

若尾 正仁
(写真前列右端)

劇団員一人ひとりの想いの強さが 大きな成果をもたらす

私たち一人ひとりが自分らしく活き活きと働くことが「人が活きる社会の実現」ですが、現実的には社会や会社の定めた役割や枠組みの中で、自分らしさを押し込めて働いている人も多くいます。「ザ・オカムラ座」は、「ありたい自分」を演じることで、働くことへの意識が変わり、それが組織や社会をより良くする力になると信じて始めた活動です。

今回は、グループ会社も含めた全社横断のプロジェクトとして、多くの方に支援をいただきました。劇団員一人ひとりが才能を発揮することで大きな力となり、想像以上の成果を残すことができたと感じています。演者が表現した「ありたい自分」の姿は、約700人の観客の皆さんの心にも届き、共感や感動、そして変化のきっかけをお届けできたようです。サポートメンバーも多彩な才能で舞台をより素晴らしいものにしてくれました。オカムラには素晴らしい才能を持った仲間が多くいるのだと実感しました。そして何より、このかけがえのない経験を共にした劇団員のみんなに、感謝の気持ちでいっぱいです。

開催後の社内アンケートでは、「オカムラ社員として誇りに感じた！」「劇団には参加できないけど、自分のできることで会社に貢献したい」など好意的な意見をたくさんいただきました。「ザ・オカムラ座」を通じて、想いの強さが大きな成果につながることをみんなで体験できたと感じています。ここで生まれた「共創」の輪を、これからも大切に育んでいきたいと思っています。